

2020. Autumn
Study & Training
Quarterly Report

MEISHO Co.,Ltd

CareManager

足立エリア / 足立区、荒川区の各施設
江戸川エリア / 江戸川区、墨田区、新宿区、文京区の各施設
埼玉エリア / 埼玉県、千葉県各施設
居宅エリア / サービス付き高齢者向け住宅の全部、一般在宅
(ガーデンフィールズシリーズ ほか)

【成年後見について】今年、1月・2月のエリア別研修では、成年後見制度についての学習でした。ご入居者様も、補助人・保佐人・任意後見人・成年後見人、他、NPO法人による身元保証を利用されています。夫々の種類の違いを理解したうえで、実際の生活の中で「何ができて、何ができないか」特に医療に関して戸惑う事もあります。夜間等緊急時に連絡が取れず、病院受診の際に困ってしまう事もあります。ご家族様以外の後見人の方についても、日頃より必要十分な連絡をとり、色々な場面を想定して対応を考慮しておく必要があると考えます。

【コロナ禍で想う事】研修が3月より中止となって久しい。研修の利点は、学習というより、同職者と交流が出来る事が大きいと感じる。通常は施設に1人のケアマネなので、他者より意見をj得ることにより、自己本位なケアプランとならぬ様な気付きを得ることが出来ます。

【コロナ禍で想う事 ②】弊社運営施設では、ご面会の制限を継続していますが、ご家族様の反応が2パターンありました。1つは「少しほっとしている」様子、もう1つは「どうしよう」と焦っている様子です。前者は「本当は日頃の面会が負担になっていた」という印象であり、後者は「逢いにいけない。認知症の母に忘れられてしまう」と心配される方もおります。どちらも、施設としての役割を再認識する言葉でした。 松戸めいせい

SAITAMA Area

KYOTAKU Area

【認知症ケアについて】

昨年5月～7月に「認知症ケア」について研修を実施しました。これは、私たちのご利用者様が住まわれている「サービス付き高齢者住宅」に入居されている方の多くが認知症の症状を有していることが理由です。最近では、コロナ禍による感染防止の観点から外出の機会が減り自宅で過ごされる時間が多くなり生活不活発な状況から認知症状を発症、又は悪化する傾向もみられます。介護施設の様にじっくりと時間をかけて接する事がなかなか出来ませんが、居宅介護支援事業所のケアマネジャーでも認知症の防止に貢献出来る事があるのではないかと考えました。新型コロナウイルスの影響で外出を控えているご利用者様には、ケアプランの変更時に訪問系のサービスをプランに取り入れる事で家族以外の方と接する機会を得る事が出来ますが、それだけでは不十分な面があります。介護保険サービスのみならず保険外サービスの導入や自宅に居ながら活動的に出来る何かを提案・取り入れて生活不活発とならないよう考慮する必要性を感じました。新型コロナウイルスにより全世界で様々な影響があるなかでも、今までの研修等で培った知識や技術をご利用者様やご家族様に還元でき、大変貴重な体験をしていると感じています。

めいしょう居宅介護支援事業所

ケアマネジャー「Must Go On」に思うこと...

「いいケアマネジャーに当たれば老後は安心です。」
私は日頃からそう言い続けています。
ご入居者様・ご家族様の信頼を得ればやりがいは一層高まります。
高齢や疾患のある入居者様には時間が無いのです。
だから最善の道の問題解決に向けてスピーディに探る必要があるのです。
私は皆が幸せになれる仕事がしたいのです。
その時々何が大切か、信念をもって優先順位をつけて行動する。
病状悪化や看取りの段階へ移行し回復の見込みがなくなり、どうにもならない時はなおさら誠実に働きかけて丁寧に説明し現状を理解してもらう事が重要なのです。
そうすれば相手は思いを受け入れてケアマネジャーを信じてくれます。
日々の業務の中でいろいろな事が同時に起こる毎日を過ごしています。
燃え尽きない為にも時間が無い中では、いつもフルスロットルというわけにはいきませんし体力もありません。
ケアマネジャーの業務に就いている大半は中高年が多く体力的に不十分な所は長年培ったキャリアでカバーするしか無いのです。
正に燻し銀を目指して奮闘する毎日です。

これからケアマネジャーを目指す方、
今頑張っているケアマネ同志に心からエールを送ります。

かさい明生苑 西條

編集後記

「ニューノーマル」という言葉をご存知だろうか？
新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を
(5月4日)を受けて国が示したものだ。詳細は厚
労省ホームページで確認できる。これは「新しい生
活様式」だそう。コロナ禍において、感染予防を
目的にした日常生活面から働き方まで基本的な生活
様式や様々な場面での感染予防策が掲げられている。
簡単に言うと、「手洗い・手指消毒・三密回
避」などと、「できる限り人と会わない・話さない」
こととなっている。未知の感染症を防ぐには致し方
ないだろう。現代人にとってはある意味楽しめる
機会も減ることだろう。しかし、私たち介護に携
わる者として、「ニューノーマル」は決して「ニュー
」ではない。感染症予防は日常的に行われていること
でコロナ禍では、さらに注意が必要であるということ
だ。介護を必要としているご利用者様は何らかの
基礎疾患を抱えている方が殆どであり、重症化リ
スクが高い。私自身が施設で仕事をしていた際、職
員に対し「介護者である自分の体調管理が疎かな
人は、ご利用者様の健康管理はできない。」と言っ
てきた。自身の生活を振り返ることも含めて自分自
身が感染しないことが第一義的だ。感染のゼロリス
クはなく、また、介護に携わる私たちは、より一
層の倫理的行動が求められる。

西岡

【多職種連携について】

安心、安全で質の高い介護の提供は当たり前でありより良いケアを迫及
するためにも共有した目標に向けて共に働く多職種連携が重要との考え
から研修の課題としました。職種が違えばひとつの現象に対する捉え方
や入居者様に対する支援方法が変わってしまう可能性があります。支援
方法を統一するためにも具体的な多職種連携が求められます。各専門職
による様々な視点の違いを尊重し、また、共有するための意見交換も重
要です。そのためには全職種で円滑なコミュニケーションが図れる職場
の人的な環境整備も必要となります。また、施設職員である専門分野
での連携にとどまらず、ボランティアなどのインフォーマルサービスを
提供する方々とも連携をとる機会が必要となると考えます。しかし、
専門分野のサービス提供がおろそかな状態では多職種連携は成り立ちま
せん。専門職としての知識・技術不足がないよう常に研鑽を重ねサービ
ス力向上の基礎を築いておくことが大切です。我々ケアマネジャーは、
情報共有を必要とするサービスの根拠を示すためのアセスメントを実施
する専門職としての自覚を持ち、ご入居者様の「より良い生活」となる
ことの一助となるようケアマネジメントを遂行する必要があると考えま
した。 竹の塚明生苑

ADACHI Area

EDOGAWA Area

【苦情や相談・事故対応で大切な事】事故や苦情が生じた時には迅速・
誠実な対応が必要です。施設より報告・説明を行う職種は問題ではな
く、報告・説明は施設側の自己防衛として行うものでもなく、第三者か
らみても客観的で的確な報告・説明が求められます。トラブル予防の
第一歩は、普段よりご面会時にご家族様とのコミュニケーションを大切
にし、施設に対して言いにくいことなど『声なき声』を汲み取ることも
ケアマネジャーのスキルとして必要です。ご家族様から『この施設に決
めて良かった。』と言葉をいただけるよう職員全員がご入居者様本意の
ケアを提供する必要があります。また、介護保険法の理念である尊厳保
持や自立支援などはケアマネジャーとしての職業倫理にも通じ、最も信
念をもってケアマネジメントを行う基礎とする必要があります。

【コロナ禍における施設の面会制限の中にあって】現在施設では、感染
予防に最大限配慮し如何にご家族様との面会を行って頂くかが課題です。
長期間、家族と会えないというのは大変不安で精神的影響も否めません。
ご家族様も認知症の進行などの不安を吐露されています。施設では消毒
や換気、マスクの着用を必須とし、アクリル板の使用や、テレビ電話の
利用でのご面会を行っています。制限下でもご面会後のご入居者様やご
家族様の満足そうな表情は心に響きます。 かさい明生苑